



# 小浜市・若狭町【福井県】 歴史文化基本構想



■策定年月：平成23年3月 ■人口：15,072人 ■面積：179km<sup>2</sup>  
■担当課：若狭町歴史文化課（平成30年3月現在）※以上若狭町情報

隣接する小浜市・若狭町共同の歴史文化基本構想として「御食国若狭の継承、そして発展－若狭の文化食にあり－」を策定した。多種多様な形態の関連文化財群を5つの縦軸となるテーマに分類し、「多様な自然と京との交流が育んだゆたかな食文化」と「津々浦々に残る民俗行事」という2つの横軸で整理した。この全国でも稀有な特徴を活かし、歴史文化の継承と発展を目指している。

## 5 歴史文化を表す つのキーワード

自然、交流、海、食、民俗

### 課題

- ・歴史文化保存活用区域と関連文化財群区域の部分的な不一致
- ・歴史まちづくり法の適用困難な関連文化財群の存在
- ・文化財の保存と活用にかかる所管が行政内で分離

### 保存活用方針

- ・地域資源の掘り起こしと未指定文化財の詳細調査
- ・文化財リストの整備と文化財の定期的な状況把握
- ・文化財災害危険マップの作成
- ・歴史文化基本構想の普及啓発と文化財活用

## 保存活用のための取り組み

### 保存修理事業

- ・住民協働の文化財調査と文化財指定の推進
- ・若狭を代表する広域首長墓の公有化をすすめ、土地所有者と住民、学識経験者と行政の協働により、ここ若狭ならではの手法を模索して整備を推進
- ・熊川宿における伝統的建造物群保存計画の充実等



### 防災整備事業

- ・防災体制の整備（特に洪水対策、山地災害、震災等）
- ・熊川宿の防災まちづくり計画の推進
- ・文化財を有する他集落での地域防災計画の推進等



### 活用施設事業

- ・「古墳の駅」を設け、若狭全体の古墳が巡れるようなコースを整備
- ・街道松を植え、各街道沿いの区による看板設置やポケットパーク化により保存活用を図る
- ・伝統産業保護継承施策の推進等
- ・熊川宿における空き家を活用したまちづくりの推進



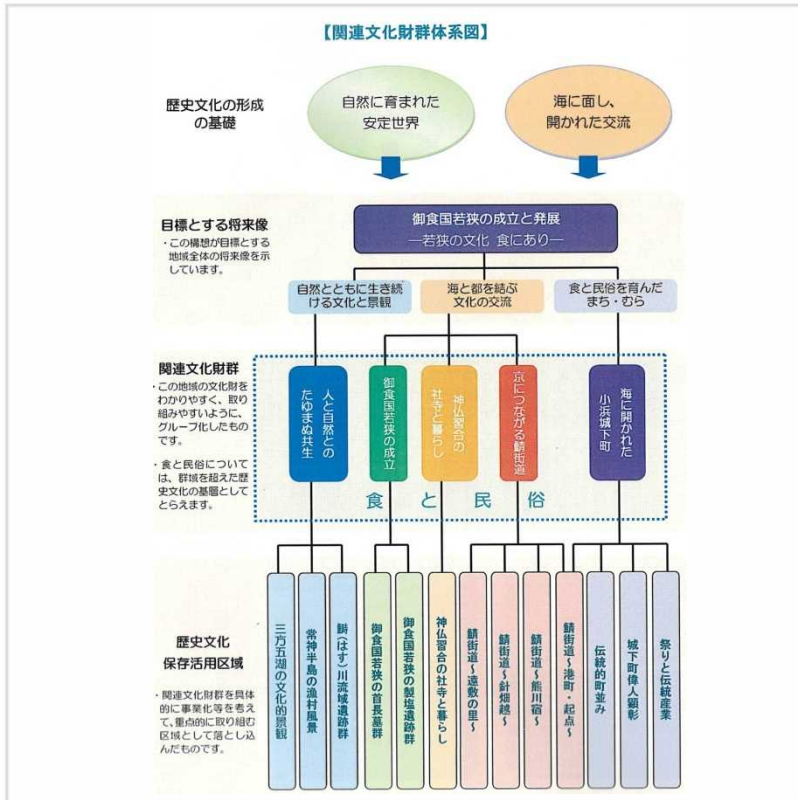
### 普及啓発事業

- ・縄文博物館友の会「DOKIDOKI会」やNGO/ハスプロジェクト推進協議会など、住民団体と有機的連携を図っていく。特に食（食育）に着目した連携に配慮
- ・両市町のみならず、若狭一円の代表的古墳マップを作成
- ・広域連携（国内外）の推進等
- ・水月湖年縞の広域的な周知





## 関連文化財群



当該地域は、時代、種別が多様で膨大な文化財、地域資源を持っている。「自然とともに生き続ける文化と景観」と「海に面し、開かれた交流」の核である「海と都を結ぶ文化の交流」及びそれらを定着させた「食と民俗を育んだまち・むら」にまず分類される。

### ストーリー

- ① 人と自然とのたゆまぬ共生
- ② 御食国若狭の成立
- ③ 神仏習合の社寺と暮らし
- ④ 京につながる鯖街道
- ⑤ 海に開かれた小浜城下町



## 策定後の成果（見込まれる効果）

### ① 日本遺産申請に寄与（短期）

・日本遺産第1号「海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群—御食国若狭と鯖街道—」認定の間接的なきっかけとなった。  
・日本遺産申請の際の関連文化財やテーマの選定等、本構想に基づき比較的スムーズに手続きを進めることができた。



### ② 保存から活用への流れを先取り

・国を中心とする「保存から活用へ」という大きな流れの変化を結果的に2~3年程度先取りすることになった。  
・『保存活用計画』を元に、他地域よりも早く取組を始めることができた。



地域の人、仕事、環境に出会う

### ③ 研究者のフィールドとして周知

自然系、人文系を問わず、若狭町を研究のフィールドとする研究者や研究室が少しずつ増えている（東京大学、立命館大学、花園大学、滋賀県立大学、武蔵野美術大学など）。

